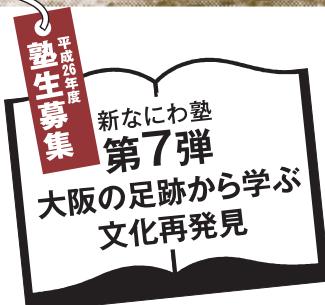


新たなにわ塾

大阪の 学校

今・昔

—その源流を探る—



明治以降の大阪にすぐれた人材を輩出し、
産業の繁栄を支えてきた「学校」。
小学校、私塾、ミッション・スクール、
旧制高等学校、旧制専門学校そして大学…。
それぞれの変遷は日本全体の学校の歴史と重なるものである。
大阪の「学校」から、日本の学校の「光と影」を考える。

府立大阪医学校（『大阪大学五十年史通史』より）



第一
講

10月3日(金) 19:00~20:30
石田梅岩と心学講舎
—いまに生きる経営倫理—
講師 辻本雅史



第二
講

10月8日(水) 19:00~20:30
高等教育機関の変遷
旧制高等学校・旧制専門学校・大学
講師 山東 功



第二
講

10月15日(水) 19:00~20:30
**川口居留地から始まった
ミッション・スクールと女子教育**
講師 西口 忠



第四
講

10月22日(水) 19:00~20:30
**町人が作った
小学校とその建築美**
講師 川島智生



第五
講

10月29日(水) 19:00~20:30
懐徳堂と泊園書院
—私塾が果たした役割と大学—
講師 藤田 貫

新にわ塾 第7弾

大阪の 学校 いま 今。 音 むかし

5回連続講座

石田梅岩
(心学明誠舎所蔵)



第一講 10月3日(金) 19:00~20:30 石田梅岩と心学講舎 ——いまに生きる経営倫理——

石田梅岩は江戸時代中期の商人出身の思想家で、商人として生きる倫理を説いた。「正直」「先も立ち、我也立つ」など、CSRの原点とも言われるその思想は今や外国にも知られ、現代の関西の経済人に引き継がれている。石門心学がいかにいまも経営倫理に示唆的であるかを考えたい。

講師／辻本雅史 (つじもと まさし)

国立台湾大学教授／京都大学名誉教授／京都大学文学部卒。同大学院教育学研究科博士課程修了。文学博士。京都大学教授を経て、2012年から現職。専門は教育史・日本思想史。主な著書に『「学び」の復権』『思想と教育のメディア史』『教育を「江戸」から考える』など。



第二講 10月8日(水) 19:00~20:30 高等教育機関の変遷 旧制高等学校・旧制専門学校・大学

大阪には、大正時代から今につながる大阪の繁栄を支えた、旧制高等学校と旧制専門学校があった。これらの高等教育機関は、名前を変え、場所を変え、統合をし、現在の大学の姿に至っている。そこには、様々な社会の要請や背景がある。高等教育機関を軸に大阪の学校について語る。

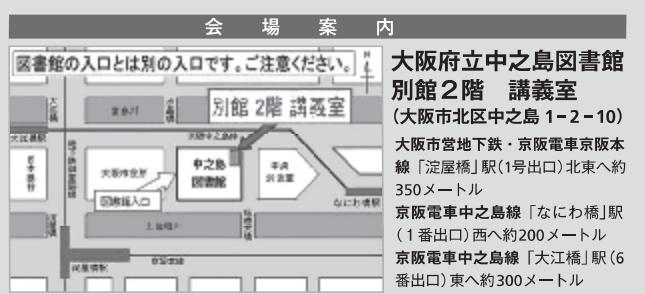
講師／山東 功 (さんとう いさお)

大阪府立大学21世紀科学的研究機構教授、大学史編纂研究所所長／大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、文学博士。大阪女子大学講師、大阪府立大学准教授を経て、2011年から現職。専門は日本語学、日本思想史、高等教育史。主な著書に『大学を学ぶ—大阪府立大学史への誘い』『唱歌と国語』『日本語の観察者たち』など。



申込み方法

- 受講料 3000円(5回通し) ■募集定員 80名(先着順受付)
- 申込方法 往復はがき、またはインターネット(電子申請)で
- [往復はがき] ①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号を明記して〒540-8570(住所記載不要)府民お問合せセンター「新にわ塾」係へ
- [インターネット] 大阪府立文化課ホームページ「新にわ塾」から<http://www.pref.osaka.lg.jp/bunka/news/shinnaniwa.html>
- 申込締切 9月25日(木)
- なお、定員に達しない場合は引き受け付けます。下記までご連絡ください。
- 問合せ先 府民お問合せセンター「新にわ塾」係
電話 : 06-6910-8001(平日 9:00~18:00)



第三講 10月15日(水) 19:00~20:30 川口居留地から始まった ミッション・スクールと女子教育

大阪市西区にあった川口居留地では、宣教師たちが学校を開設し、キリスト教伝道とともに英語や音楽などを教えた。初期の女子教育の内容、女学生と彼女らを入学させた親たち……。手狭になった居留地を離れ、各地に移転しながら、大阪の女子教育を牽引してきた、ミッション・スクールに光を当てる。

講師／西口 忠 (にしぐち ただし)

桃山学院史料室職員／川口居留地研究会事務局、日本聖公会歴史研究会会長、日本英学史学会副会長、「大阪春秋」編集委員。「桃山学院百年史」「桃山学院創立125周年記念誌」編集。「聖公会新聞」に「日本聖公会史そぞろ歩き」を共同執筆。



第四講 10月22日(水) 19:00~20:30 町人が作った 小学校とその建築美

明治時代初期、小学校は区ごとに町人が、土地家屋などを寄進し、建設費を調達して開校した。町民自治の伝統に基づいて運営された小学校の中には、鉄筋コンクリートに改築されて、凝ったデザインのものも生まれた。大阪の人たちが小学校を育てた歴史を、その建築物のたたずまいとともに振り返る。

講師／川島智生 (かわしま ともお)

京都華頂大学教授／京都工芸繊維大学大学院博士課程修了・博士(学術)、関西の小学校建築史で博士号を取得。著作に『近代日本のビール醸造史と産業遺産』『近代奈良の建築家岩崎平太郎の仕事』、共著に『関西のモダニズム建築』『民芸運動と建築』。季刊雑誌『文教施設』に小学校の建築史を2004年より連載。



第五講 10月29日(水) 19:00~20:30 懐徳堂と泊園書院 —私塾が果たした役割と大学—

大阪の戦前の人文系の学問を支えたのは、漢学を中心とする私塾であった。懐徳堂は江戸時代の学問所だが、大阪の政財界の支援を得て重建懐徳堂として大正期に再建された。また泊園書院は江戸後期から明治・大正期を通して漢学振興と漢詩文普及に貢献した。戦後、大学に引き継がれていくこれらの塾が、大阪に果たした役割を紐解く。

講師／藪田 貫 (やぶた ゆたか)

関西大学文学部教授・同大学大阪都市遺産研究センター長／1971年大阪大学文学部卒業、同大学院修士課程・同大学助手・京都橘女子大学を経て1990年関西大学に教授として着任。専門は日本史、特に江戸時代(近世)の社会史・女性史。泊園記念会会長。主な著書に『男との近世史』『武士の町大阪』など。

